

保育闘争委員会ニュース 公的保育を守り拡充させよう

2012年
5月11日(金)
第71号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会 Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957 honbu@tokyo-jichiroren.org

「新システム」審議入り、批判相次ぐ

「子ども・子育て新システム」関連三法案は5月10日、衆議院本会議で趣旨説明と各党の質疑が行われました。自民党・野田聖子氏は「法案を取り下げるべきだ」、自民党・馳浩氏は「保育を金もうけの場にするのか」という保育関係者の不信は根強い。株式会社の参入には慎重であるべきだ。

(提案されているものでは)待機児童を減らせない、公明党・池坊保子氏は「総合子ども園では3歳児未満児受け入れが義務づけられていない。待機児童解消に結びつかない。安易な事業撤退や、営利主義による人件費の圧迫が起きかねない。わざわざ複雑な制度を作る必要はない。新法を作る必要はなかった」、共産党・高橋ちづ子氏は「深刻な待機児童問題を起こしたのは、詰め込みですまし、保育所をつくるまともな対策をとらなかったからだ。新システムは、“保育も金次第になる”市場化を進めるものだ。営利企業と子どもの豊かな育ちを支える保育は相容れない」などの追及がなされました。

これらの追及に、野田首相等は「待機児童問題の原因は機動力に限界のある現行制度。新たな仕組みを導入して待機児童の確実な解消をめざす」「消費税を入れることは、人生前半の社会保障を強化する」などと答弁しました。

—消費税増税反対、保育の新システム反対—

墨田 錦糸町で大道芸など宣伝行動

保育の危機である「子ども子育て新システム」の宣伝行動が、3月末に行ったまま途絶えていた墨田区保育園支部ですが、墨田労連(墨田区の民間労組の連合団体)からの声掛けがあり、消費税増税反対の宣伝とともに、にぎやかに宣伝することになりました。

錦糸町駅からスカイツリー方向に3分ほど歩いた錦糸公園の入り口で、ちょうど天気にも恵まれ、公園の入り口はショッピングモール(オリナス)の入り口近くでもあるので、小さい子供連れの親子が行き交い、とてもにぎやかでした。

土曜の日中のひとときということもあって、買い物やレジャーの親子連れがハンドマイクの訴えと、音楽を流しながらバルーンによる動物等の作成(大道芸人・丸玉ヨサクさん)、おサルさん、ウシさんの着ぐるみを着た今年4月採用の新人保育士から風船を楽しそうにもらっていました。なかには、抱きつく可愛い子どもたちもいました。

風船を配るとともに、すかさず「新システム」の宣伝をし、反対署名もしてもらいました。10名の参加で一時間ほどの宣伝でしたが、123筆集めることが出来ました。

そして、子どもたちをこよなく愛し、墨田の子どもの未来の幸せを願って奮闘していた、墨田の保育士、相馬英子さんが病と闘い続け、この日に力尽きたことを知ったのがこの宣伝のすぐ後でした。この日が命日となり、忘れられない宣伝行動になりました。



足立 返信用封筒セットで地域配布

「子ども・子育て新システム」に反対する取り組みは大詰めを迎え、足立区職労保育園分会でも学習をして確信にして運動を進めようと、3月6日に高橋光幸さん講師で開催しました。「新システム」の最新情報やその問題点、「基本制度とりまとめ」の内容と課題、これからの運動などわかりやすい話に参加者一同確信が持てました。その中で、足立の「5歳児プログラム」の内容にも触れてもらい、教育委員会への移行や「就学前教育カリキュラム」の策定は「新システム」の先取りであることなどを学んだ学習会でした。

この学習をもとにこれからの具体的な取り組みとして、

- ① 署名について 組合員は一人10筆を目標にしました。

その他庁舎内、OBに訴えて協力をお願いします。

- ② 地域宣伝について 署名用紙・チラシ・返信用封筒をセットにして2000枚の全戸配布を、待機児童の多い北千住地域と西新井地域で行いました。少しずつではありますが署名が届いています。駅頭宣伝にも取り組む予定にしています。

足立の保育現場は人員が減らされる一方で、様々なことがトップダウンでおろされ、厳しい状況が続いています。それだからこそ一人でも多くの組合員にこの情勢を伝え、一緒に運動に参加してもらいようという取り組みを進めていきます。

【傘下の組織や保育関係者に配信・配布してください】